

# ええとこさぬき 聞きしるべ

## はじめに

さぬき市集落支援員は、「住みたい、住み続けたい」と思われるようなまちづくりをモットーに、2013年8月から2名が活動しています。

2014年、全国の市町村の半数が2040年までに消滅する可能性があるというショッキングなニュースが報道されました。そのような報道を目にする一方、私が巡回している地域の方はとてもいきいきしていて、「生活の中で困っていることなんてないよ」と答えて下さる方もたくさんいらっしゃいます。そこには高齢化率や人口減少率だけでは測れない、日々の営みがありました。

生まれてから25年間、一度もさぬき市から離れたことのない私ですが、集落支援員になるまでは、地元やふるさとについてきちんと考へる機会がないまま過ごしてきました。

しかし、3年間の支援員の活動を通して、多くのさぬき市に暮らす人たちと出会うことができ、何よりお年寄りのパワフルさに圧倒されました。そして、これまで自分が住んでいるまちに無関心だったことにも気づきました。実際に地元の活動に関わってみると「さぬき市ってこんなにも魅力あるまちだったんだ」ということに気づかされました。

「さぬき市のことを一人でも多くの人に知ってほしい」

地元に住んでいる人はもちろん、さぬき市から離れて暮らす友人や知人、そして、将来さぬき市に移り住みたいと思っている人たちに、私が支援員として教わったまちの魅力を伝えたいという思いからこの冊子を作成しました。

住んでいる地域のお年寄りの声にしっかりと耳を傾けてみる。四季や伝統行事を思いっきり楽しんでみる。図書館で地元のことについて調べてみる。地元の友だちに会ってみる。

そうすると、きっとふるさとがいきいきと色づいて見えてくるに違いありません。

さぬき市集落支援員 松木優紀





こんな地区です！

前山地区は、さぬき市の南部、四国霊場 87 番札所・長尾寺から 88 番札所・結願の大窪寺へ向かう道中に位置しています。前山地区の中心となる施設が「おへんろ交流サロン」と「道の駅ながお」です。この 2 つの施設には、年間 1 万 5 千人以上のお遍路さんが訪れるなど、地域の交流の場として年間を通して賑わっています。

## まえやま 前山地区

## 地域のみなさんの憩いの場

「おへんろ交流サロン」と  
「道の駅ながお」で  
教えてもらったこと



おへんろ交流サロン

長尾地区から南へ向かって県道3号線を走ると、やがて前山ダムのゆったりとした水面が見えてきます。地域の賑わいの拠点となっている「道の駅ながお」では、前山地区のお母さんたちがいつも温かく迎え入れてくれます。ここでは、前山でとれた野菜や地域の人たちが手間暇をかけたお寿司やおはぎなどが販売されています。また、「おへんろ交流サロン」では、地域の人がボランティアでお接待を行い、大窪寺へ向かうお遍路さんの心と体を癒やしてくれます。前山地区で生まれ育った方が多く、地域の伝統行事や歴史・文化を記憶している古老がいらっしゃいます。

## 前山地区で出会った忘れられない人

### 祭りにむけた地域の想い

「おへんろ交流サロン」と「道の駅ながお」では、お遍路さんと観光客に喜んでもらおうと、毎年4月に「さくらまつり」を、11月に「もみじまつり」を開いています。祭りの企画や運営を行うのは、地域の住民グループ「前山地区いきいき事業協議会」。祭りにむけた想いを、会長の寒川巧さんにお聞きしました。

「協議会の前身は、1974年に発足した『前山をよくする会』です。住民が健康、安全で心豊かに暮らせる地区をめざそ



うと、地域に暮らす全員が会員という思いをもって、環境整備活動や地元小学校の児童たちとの交通キャンペーンを続けてきました。しかし、最近では住民の高齢化が進み、祭りや郷土芸能である獅子舞など地域の伝統やネットワークが途絶えてしまわないか心配です。これまで先人が培ってきたものを後世に語り継ぐためにも、若い世代の人にもっと地域の催しに参加してほしいですね。」



こんな地区です！

## おだ 小田地区

小田地区は、さぬき市の北東部に位置し、南部は山、北部は瀬戸内海に面した風光明媚な地域です。かつては、漁業や製塩業で栄えました。大正時代には、小田と高松を結ぶ貨客船も運航されていたそうです。また、戦前には漁師たちが安定した漁場を求め、韓国へ移住した歴史もあります。

地域のみなさんの憩いの場  
「小田ふれあい喫茶」で  
教えてもらったこと



小田ふれあいプラザ

小田地区では、地域の賑わいの中心だった幼稚園と小学校が2014年3月に閉園・閉校しました。

しかし、地元の人たちの協力で、現在はその園舎・校舎跡の東隣りの小田ふれあいプラザで、毎月第1・第3木曜日（午前9時～12時）、カフェ「小田ふれあい喫茶」がオープンしています。このほか、プラザではいきいき健康教室や手芸教室なども開かれ、地域の拠点として活用されています。

小田地区で出会った忘れられない人

「小田ふれあい喫茶」に  
むけた地域の想い



「小田ふれあい喫茶」をオープンさせたのは小田地区婦人会の皆さん。婦人会長の池田瞳さんにきっかけをお聞きしました。

「もともと私が民生委員をしていたとき、地域のよりどころとして茶話会や買い物の送迎をしていましたが、参加者の高齢化に伴い、茶話会に参加できなくなる人や家に閉じこもりがちの人が少しずつ増えていました。私自身が高齢になったとき、果たして今後、小田で暮らしていくかな……と不安になりました。そんな思いを婦人会の仲間に伝えたと

ころ、『地域の人たちとの交流の場として喫茶店をやってみようよ』と意見がまとまりました。毎回2日前からの準備で大変ですが、やりがいも感じています。」

2014年6月に手探りで始めた「ふれあい喫茶」は、今では70食のモーニングがあつという間に完売。喫茶がオープンする日に合わせて地域の人たちが作った惣菜や野菜の販売も始めたそうです。今では地区の外から喫茶に足を運ぶ方もいて、小田地区の人たちと談笑の輪が広がり温かい雰囲気です。



こんな地区です！

## きたやま 北山地区

北山地区は、津田町の中心部から車で 10 分ほどの海沿いに位置します。満天の星空と瀬戸内海に浮かぶ小島（鷹島と猿子島）の間に昇る朝日の美しさは格別で、瀬戸内海を一望できる風光明媚な景色を求める遠方からも多くの方が訪れます。また、旧北山小学校は 1883 年の開校以来、114 年間、歴史と伝統を受け継ぎ、北山地区の教育・地域の拠点として大きな役割を果たしました。

## 地域のみなさんの憩いの場

### 「津田公民館北山分館」で 教えてもらったこと



津田公民館北山分館

かつての北山地区は、漁業や海と山に囲まれた温暖な気候をいかした柑橘類の栽培で栄え、大正時代には200人を超える児童が地域の小学校に通っていました。しかし、産業の衰退や高齢化などの影響で人口は減少し続け、1998年には小学校も閉校しました。

閉校後は、学校のグラウンドを活用し、お盆には地元の人たちが企画・運営する「北山夏まつり（毎年8月13日）」、お正月には「初日の出を見る会」でぜんざいのお接待が催されるなど、地域ぐるみで来訪客をもてなしています。

## 北山地区で出会った忘れられない人

### 北山地区での暮らしへの想い

人口減少が続く北山地区ですが、地域の人たちの人柄と豊かな自然に魅せられ、移住された方がいます。移住された方に北山地区での暮らしをお聞きしました。

「幼なじみとふれあいながら、ふるさとでのんびり生活できて喜んでいます。とれたての魚や野菜をわけてくれるなど、北山地区はおおらかで親切な方が多いです。讃岐弁も懐かしく、耳に心地よく感じます。」

「移住して2年目に自治会長を任され、

最初はびっくりしました。今では北山地区は移住者も地域の一員として温かく受け入れてくれる住みよい地域だと感じています。」

「北山地区での暮らしには生活の足として車が欠かせませんが、水平線から昇る朝日と満月の夜の空の美しさにはいつも感動しています。」

これらの方たち以外にも、家庭菜園の世話や趣味の釣りを通して「北山暮らし」を楽しんでいる方もいます。





## たづら 田面地区

こんな地区です！

田面地区は、東かがわ市に隣接するさぬき市東部の中山間地域に位置する山あいの集落です。農家の人が、農家でない人も情報を共有しながら獣害対策に取り組み、活動がモデルケースになっています。自治会ぐるみの活動が注目され、視察や取材が年々増えています。

## ● イノシシやサルに負けない集落づくり 「豊田集落」で教えてもらったこと



豊田自治会の獣害対策取り組み図

豊田自治会では、自治会有志の発案で獣害対策を進めています。イノシシやサルの出没は、集落の山際で1991年頃から始まり、1995～1996年頃にはほぼ全域に拡大。集落内には耕作放棄された田畠が目立つようになりました。このような状況に対し、2006年、「獣害をなくし、遊休農地のない集落を次世代に残したい」との思いから自治会有志が立ち上がり、2007年1月に国や県の補助事業などの活用によって自治会ぐるみの対策・取り組みがスタートしました。2011年には、獣害のため耕作をあきらめていた田畠も120アールが復田しました。

### 田面地区で出会った忘れられない人

#### 獣害対策にむけた地域の想い



ゆきうめよしてる  
豊田自治会の行梅義照さんは、語ります。  
「自治会の皆さんには、個人が持つ技能や体力に見合った役割を担ってもらっています。農家でない人にも活動へ加わってもらうこと、『全員参加型』の鳥獣害対策に取り組むことで、自治会の一体感を醸成することもできたよう思います。」

活動を通して鳥獣害対策は注目を集

め、香川県内外からの見学や視察が相次いでいます。人の出入りが増えればイノシシやサルが警戒し、遠ざける効果も見込まれます。

鳥獣被害でお困りの方、イノシシやサルに負けず頑張っている豊田自治会を一度訪れてみませんか？

TEL : 0879-43-2757

(豊田自治会 行梅義照まで)



こんな地区です！

## とみだひがし 富田東地区

富田東地区は、海側の津田の松原、山側のみろく自然公園を南北に直線で結んだ中心地点あたりの幹線道路から離れた山のふもとのどかな地域です。みどころは、西教寺（奥の院）の磨崖物。<sup>まがいがつ</sup>磨崖物とは自然の岩などに掘った仏さまや不動明王などをいいます。西教寺の北西、標高 160 メートルの火山中腹に位置する凝灰岩の岩壁にある磨崖物は、弘法大師が一夜で彫ろうとしましたが、夜が明けてしまい鶏が鳴いたので中止し、大窪寺へ向かったという伝承があります。

## かかしづくりの名人

「前山トミ子さん」から  
教えてもらったこと



前山さんが作ったかかし

富田東地区を歩いていると、美容室の前に置かれた愛らしいかかしに目が留まりました。かかしづくりの名人は、美容室を経営する前山トミ子さん。美容師の仕事の傍らかかしを制作し、早いときで1体を約2日で仕上げます。

前山さんの元来の手先の器用さや人形づくりに興味があったこと、かかしの素朴さにひかれたことが制作の大きな原動力になっています。



## 富田東地区で出会った忘れられない人

### かかしづくりへの想い



前山トミ子さんに、かかしづくりへの想いをお聞きしました。

「5年前に徳島県三好市東祖谷『天空の村・かかしの里』をドライブ中、村のあちらこちらでかかしを見かけ、古き良き時代にタイムスリップしたよう感じました。材料は、古新聞と十字に組んだ木枠を基礎に、人形に着せる服は使い古した古着を利用しています。私の強みはヘアセットや着付けができることです。」

「核家族化が進み、隣近所で助け合う

風習がなくなりつつあります。私のかかしを見て、みんなが穏やかになって笑顔を取り戻してほしいという願いを込めてつくっています。」

これまで制作してこられた数多くのかかしを見せてもらいましたが、どのかかしも手の指の先にいたるまで、緻密につくられていて、かかし一体一体への情熱が伝わってきました。今後、地域の人たちと一緒にかかしづくりをするのが前山さんの夢です。」



こんな地区です！

## た わ 多和地区

多和地区は、さぬき市の最南に位置し、徳島県美馬市に隣接しています。現在、四国 88 箇所霊場や遍路道が世界遺産登録へ向けて機運が高まっていますが、同地区には結願の寺・大窪寺があることでよく知られています。

また、2012 年 3 月末をもって閉校となった旧多和小学校は、地域活性化複合施設（結願の里）として「産直市」や「どぶろく工房」のほか、2016 年 3 月には世界でただ一つの「天体望遠鏡博物館」が整備され、多和地区的地域活性化の拠点となっています。



## 讃岐と阿波の文化の要衝

「多和地区」で  
教えてもらったこと



細川家住宅



標高 400 メートルに位置する多和地区は、矢筈山や女体山などの美しい山並みが連なり、大自然のふところに抱かれています。

地区を南北に走る道はかつて、徳島県から香川県へ塩を買い求める道でした。源平合戦の折には源氏・平氏の兵がともにこの道を通過したと言われています。

今では、耕運機やトラクターで水田の田おこしをするのが当たり前ですが、昭和中期までは、徳島県の牛を借り受けて田を耕運する「借耕牛」といわれる風習が根付いていました。

また、「讃岐男に阿波女」のいわれがあり、徳島県から嫁いできた女性も多く、多和地区が両県をつなぐ要衝であったことが伝わってきます。



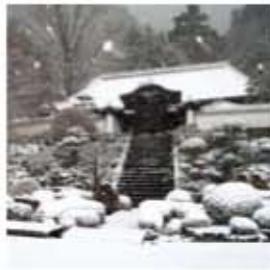
## 多和地区で出会った忘れられない人

### 多和地区での暮らしへの想い



旧多和小学校楓川分校から西へ約 2 キロ行くと、菅谷自治会があります。山に囲まれた静かな集落で、十数戸ある世帯のほとんどが 1 人暮らしのお年寄りたちです。「毎日の生活は不便ではないのだろうか。」私の心配をよそ

に 90 歳のおばあちゃんは背すじをビンと伸ばし、過去から続いてきた日々の営みを連綿と紡いでおられました。私自身「このおばあちゃんのように素敵に年を重ねることができたらいいなあ。」と思いました。



## 集落支援員について

### ●集落支援員とは？

- ・地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握を実施（総務省）
  - ①集落を見守ること
  - ②各種団体等の間をつなぐこと
  - ③集落を元気にする新たなサポーター
- ・さぬき市にある課題発見と、解決方法を地域住民の人たちと共に探っていく
- ・住民と行政、各種団体を結ぶ架け橋

「集落ぐるぐる団りごとを聞いて回り隊」

集落支援員は、結論を出すのではなく、必要な情報を提供しつつ、集落の居住者たちが話し合う基礎をつくるお手伝いをします。



### ●さぬき市移住＆交流総合支援サイト

ええとこさぬき市ホームページ

<http://www.city.sanuki.kagawa.jp/eetoko/>

さぬき市地域おこし協力隊 facebook

<https://www.facebook.com/sanuki.okoshi>

### ●さぬき市ホームページ

<http://www.city.sanuki.kagawa.jp/>

発行 2016年7月

発行元・企画・制作 さぬき市 総務部 政策課

〒769-2195 さぬき市志度 5385-8

電話 087-894-1112 FAX : 087-894-4440

e-mail [seisaku@city.sanuki.lg.jp](mailto:seisaku@city.sanuki.lg.jp)

写真協力／舟越彩子（さぬき市地域おこし協力隊）

吉田治喜（さぬき市集落支援員）

FM香川「さぬき市再発見ラジオ遊びの達人」